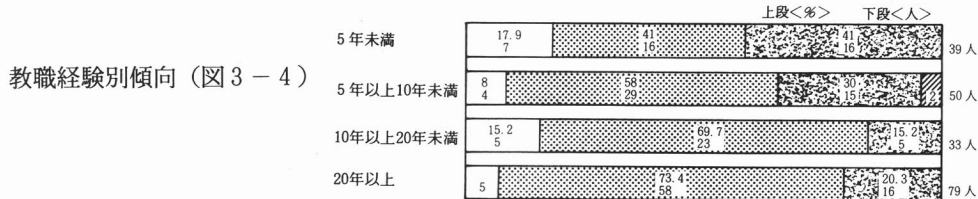
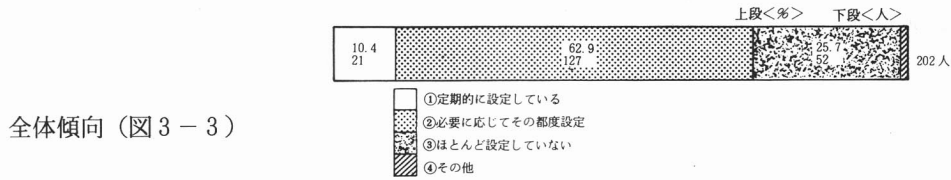
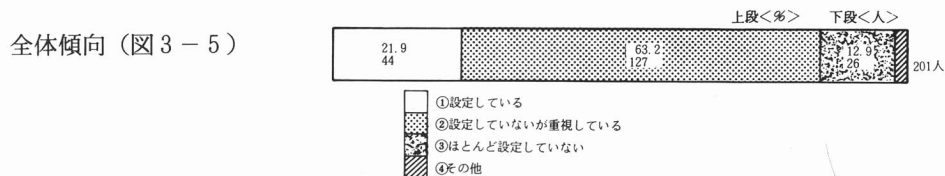


〈設問3〉 学校あるいは学年内で「個の理解」や「個を生かす」ために、意図的・計画的な「話し合いの場」を設定していますか。



〈設問4〉 学年や学級の諸活動の中に、一人一人の興味や関心に応じて自己決定して行動する場を、意図的・計画的に設定していますか。



〈 考 察 〉

全体傾向 (設問3)

図3-3をみると、③が①を大きく上回っており、定期的な設定はほとんどみられない。

さらに、②必要に応じてその都度設定が約63%で、過半数を占めていることから、中学校においては「個の理解」や「個を生かす」ための意図的・計画的な「話し合いの場」を設定することが困難であることがわかる。

教職経験別傾向 (設問3)

図3-4からわかるように、教職経験が5年未満の教師は、他の年代と比較すると、定期的な場を設定している割合が多いと同時に、計画もなく実施もしていないという回答の割合も高い。

また、教職年数が多くなるほど②の回答が高く、臨機応変の対応の仕方がうかがえる。

全体傾向 (設問4)

図3-5からわかるように、約63%の教師が②

設定していないが重視していると回答している。

②と③を合計すると約76%になり、自己決定の場を設定していない様子がうかがえる。

問題点

○ 「個を生かすための話し合いの場」は、意図的・計画的に持たれていないと考えられる。

○ 学年・学級の諸活動の中に、自己決定の場を設定していない教師が多い。

改善の方向

○ 「個の理解」や「個を生かす」ための話し合いの場を定期的に設定し、教職経験が少ない教師にも積極的な参加を促し、共通理解を図る必要がある。

○ 学年・学級の諸活動の中に、意図的・計画的に「自己決定の場」を設定する。